ひとくち法話

宝林宝樹（ほうりんほうじゅ）

親鸞聖人がお浄土の風光を詠われた和讃の一節に、「宮商（きゅうしょう）和して自然（じねん）なり」という言葉があります。「宮・商」とは雅楽（ががく）の音階です。「宮」とは洋楽のドに「商」はレに当たるそうです。そこでピアノの鍵盤のドとレを同時に弾きますと全く音程の違う音になります。これを不協和音と言います。その不協和音が不思議なことにお浄土ではまるで和音のように響いて聞こえてくるというのです。それはなぜでしょうか。それは浄土が「智慧と慈悲」の世界であるからです。私たちの目は外を向いています。外を見る立場からは認識はあっても自覚はありません。私もよく社会や人を批判し、人間の醜さを指摘することが多々あります。それは内を見ずに外ばかり見ている証拠でありましょう。その外に向いた目を転じて内に向ける力を智慧と言います。その智慧が慈悲を生み出し、「他人のことは言えないなー」と深く反省させられるのです。その時、閉じられていた心の窓が開くのです。その開いた窓を通じてはじめて不協和音が和音に転じられるでしょう。

仏法を聞くたび「浄土を願え」とよく聞かされますが、実はこのことであったのです。

真宗興正派